

## 国際化学肥料ニュース（2010年7月）

### 肥料業界の2010年7月動態

\* IFA（国際肥料工業会）は2010～2014年の世界農業発展と化学肥料供給見通しに関する予測報告書を公表した。全体では化学肥料の需要が回復する傾向が強くみられ、それに伴い、生産能力の拡張動向も速まっている。2010～2012年は化学肥料の供給と需要がほぼ一致するが、2012～2014年は生産過剰の可能性もある。窒素、りん酸、加里肥料のそれぞれの動向が下記の通りである。

1. 窒素： 2009～2014年、全世界に55の尿素、65の合成アンモニウム新設プロジェクトがすでに計画されている。合成アンモニウム生産能力は2009～2014年に4%の年率で増加し、2014年の生産能力が2.241億トンに達する。

尿素はその供給量が2009年に1.486億トン、2010年に1.556億トン、2014年に1.934億トンと年間約6%の増加が見られる。一方、需要については、2009年に1.464億トン、2010年に1.512億トン、2014年に1.746億トンと予測される。2010年以降は尿素の供給過剰が見られ、2014年に尿素供給過剰量は1900万トンに達する。

2. りん酸： 全世界のりん鉱石生産能力は2009年の1.9億トンから2014年の2.28億トンに増加する見込み、新生産能力の増加はアフリカ、西アジアと東アジアに集中し、北米が逆に生産量微減する予測。

りん酸の生産能力は2009年の4570万トン（P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>換算、以下同）から2014年の5550万トンに増加する。りん酸の生産能力過剰量が2010年200万トン、2012年270万トン、2014年340万トンと増大する。但し、りん酸は主に各国の国内に使用されるため、その調整がうまく行くだらうと予測する。

りん酸肥料については、2009～2014年に約40のMAP、DAP、TSP工場新設項目が完成し、その約半分は中国にある。2014年に世界のりん酸肥料生産能力は2009年より820万トン多い4230万トンに達する。但し、りん酸肥料特にDAPの需要が大幅に増加し、2014年にはりん酸肥料の生産過剰が殆どない。

3. 加里： 2009～2014年に新規建設の加里採掘と塩化加里精製プロジェクトがカナダとロシアに集中している。カナダに限って、過去3年間すでに180件の加里鉱山採掘許可が下りた。また、アルゼンチン、チリ、中国、ゴンゴ、イスラエル、ヨルダン、ラオス等にも新規の加里鉱山開発が進んでいる。但し、加里鉱山の開発には時間と資金がかかるため、2010～2011年に加里肥料（K<sub>2</sub>O換算、以下同）の生産能力増加量は200万トン、2012～2013年は640万トン、2014年は250万トンと予測される。

一方、加里肥料の需要量が2009年2480万トン、2010年2990万トン、2014年3580万トンと年9%の増加が見込まれるため、生産能力の増加が間に合わないと予測する。

\* カナダのPotash Corp社は最新の加里肥料市場調査報告を公表した。主な内容は下記

の通りである。

1. 北米地域の加里肥料消費量は安定している。この数年間は約 900 万トン/年で、2020 年は 1000~1400 万トンに達する可能性がある。
  2. 南米は大豆の栽培面積の増加により、加里肥料の需要が大幅増加した。過去 20 年間で平均毎年 5%を増加し、2010~2011 年度は 850~900 万トンの消費量が見込まれている。特にブラジルの消費量は南米消費量の 75%を占め、2010 年だけで 700~800 万トンを輸入する予定である。また、南米の加里肥料消費量の増加傾向は今後も続き、2020 年には全体で 1200~1300 万トン/年に達する。
  3. アジア地域では、中国では国内加里肥料生産量は増加しているが、それでも 2010 年に 450~500 万トンを輸入する可能性がある。インドでは 70%の農地が土壌中の加里が不足で、窒素：加里の使用量は 2~3：1 を推奨する。2010 年に 550~600 万トンを輸入する計画である。東南アジアではパームの栽培に多量の加里肥料が必要で、また、水稻栽培にも加里肥料が不可欠である。従って、中国とインド以外のアジア地域では 2010 年に加里肥料の消費量は約 600 万トンであるが、2020 年には 900 万トンに増加する。
  4. リーマンショックの影響で加里肥料使用量が急激に下落した結果、2009 年世界の加里肥料出荷量は 3000 万トンであった。2010 年以降は回復に向かう。2010 年は 5000 万トンに回復するだろう。また、世界人口の増加と食生活の向上により、2011 年以降も加里肥料の使用量が年間 3%以上の増加が見込まれている。
- \* ロシア税関は今年 1~5 月の化学肥料輸出数量を公表した。窒素肥料の輸出量は 393.61 万トン、金額 7.64 億ドル、昨年同期に比べ、数量では 11.5%、金額では 15.9%それぞれ減少した。加里肥料の輸出量は 348 万トン、金額 10.338 億ドル、昨年同期より数量では 130%増、金額では 40%増であった。化成肥料輸出量は 301 万トン、金額 9.4 億ドル、昨年同期よりそれぞれ 20.4%、18.4%増加した。
- \* イギリスの調査会社 FMB は尿素の市場調査報告を公表した。今年 7 月以降の下半期に尿素の需要が旺盛で、価格が上昇傾向にあると分析した。その報告書の要旨は次の通りである。
1. アメリカは 2009~2010 年度の尿素輸入量は 540 万トンに達した。2010~2011 年度では水稻の栽培面積の拡大に伴い、尿素の使用量も増加傾向。8 月にはサウジアラビアから 6 万トン輸入することを皮切りに、尿素輸入量は前年度と同じの 540 万トン前後と予測。
  2. ラテンアメリカでは、ブラジルの需要量が飛び切りに多い。1~4 月に 64.3 万トン、5 月に 18.1 万トン輸入した。また、6~7 月に 50~60 万トン、8 月に 20~25 万トンの輸入を控えている。2010 年に計 210 万トン輸入すると予測。メキシコは 7 月にすでに

- 10万トン尿素を輸入したが、8～9月にまた7.5～10万トンを輸入する予定。チリは7月に7.5万トン輸入したが、8～9月にも毎月5～7.5万トンの輸入を控えている。
3. インドは6月にイランとオマーンから50万トンを輸入した。2010年に350～400万トン輸入する予定で、8～10月には毎月50万トン以上の輸入を予定している。
  4. 東南アジアも尿素の需要が旺盛で、タイは1～4月にすでに95.1万トン輸入した。昨年同期では74.7万トンであった。フィリピンは7月に7～7.5万トン輸入した。ベトナムは主に中国から2～3万トン/月を継続的に輸入している。
  5. 韓国は1～4月に23.3万トン、5月に10.4万トンを輸入した。2010年の輸入量は63万トンに達すると予測。
  6. 生産量については、ウクライナは天然ガスの供給問題で、6月の輸出量は20万トンだけで、7月も5工場のうち3工場が生産中止で、供給に影響が出ると予測される。中東では生産が順調で、サウジアラビアは7月に8船の尿素を輸出した。また、イランでは生産能力110万トン/年のPardis工場の2期工事が完成し、正式に生産開始した。エジプトもトルコ向けに順調に尿素の輸出を進んでいる。

#### 大手各社の営業業績

\* ロシアのUralkali社が7月22日に今年1～6月の塩化加里生産データを公表した。1～6月の塩化加里生産量は240万トン、前年同期より倍増した。また、6月の塩化加里生産量は39.5万トンで、前年同期の2.2倍。塩化加里の輸出先は中国、ブラジル、インドと東南アジアである。

#### 7月の大口契約と輸出：

- \* 7月に入って国際市場はりん酸肥料の契約と輸出が非常に活発している。
1. ロシア：Lifasa社は7月のDAP生産量が全量契約済み、契約価格はインドにはCFR500ドル/トン、南米にはFOB447ドル/トン、西ヨーロッパにはFOB455ドル/トン、東ヨーロッパにFOB465ドル/トン。また、Kingisepp社はFOB440～450ドル/トンの価格で南米、アフリカ、イギリスに1万トンMAPと1万トンDAPを輸出する。
  2. モロッコOCP社は7月のDAP、MAP生産量はすでに全量予約販売済み、8月産の重過石についてヨーロッパと商談中、FOB360ドル/トンを提示。
  3. チュニジアGCT社はトルコとの間に7～9月に27万トンのDAP契約、FOB455ドル/トン、また、他の地域にも5～6万トンを輸出する予定。
  4. アメリカのMAPは価格上昇中、ブラジルにはFOB500ドル/トンを提示。アメリカりん酸肥料協会はFOB555～560ドル/トンで中米に5000トンDAPを輸出した。また、インドにも6船のDAPを輸出した。
  5. インドはCFR490ドル/トンでDAPの入札を行う意向であるが、応札の可能性が殆どゼロ。パキスタンはCFR505ドル/トンで40万トンDAPの輸入を中国に打診したが、

中国の返事は CFR510 ドル/トン以上であるため、まだ契約していない。

6. ブラジルは 8 月輸入予定の DAP について打診中。アルゼンチンは CFR503 ドル/トンでロシアから MAP し、中国から 2.5 万トン MAP と重過石を輸入した。また、アルゼンチンは更に 1.5~2.5 万トン MAP を輸入する予定。

### 肥料プラント新規建設

- \* ロシア Uralkali 社は 2010~2012 年に 12 億ドル投資し、ウラル地方の Ust-Yaivinsky にある加里鉱山の開発を着手し、370 万トン/年の塩化加里生産工場を新設する計画。なお、当該計画の総投資額は 30 億ドルと予定して、2018 年から塩化加里を生産する。Uralkali 社は世界の加里肥料巨頭の一つで、ロシアのウラル地方に 2 つの鉱山と 4 箇所精製工場を有し、生産能力は 550 万トン/年、2009 年の加里肥料生産量は 260 万トンであった。
- \* インドの国営化学品&肥料社 (RCF) はアフリカのガーナ政府に合弁で 100 万トンの尿素と 130 万トンの硝安工場を建設することを提案した。合弁会社の株式はインド 51%、ガーナ政府 49%の予定、インド RCF 社の投資額は 15 億ドルの予定。
- \* 中国の瓮福グループはオーストラリアの Legend 社の依頼を受け、Queensland 州にりん酸肥料生産プロジェクトの実行可能性調査を終了した。その結果を受け、中国瓮福グループが当該プロジェクトに出資することになる。プロジェクト計画では、60 万トン硫酸工場、30 万トンりん酸工場、60 万トンりん安工場と 1.5 万トンフッ酸アルミニウム工場を建設する。そのリン鉱石は Queensland 州 Paradise にあるりん鉱山から入手する。

生産されたりん安は主にインドに輸出する。インド農協連合会 (IFFCO) はすでに Legend 社に 15.2%出資した。
- \* インド Nagarjuna 化学はアフリカのリベリアに大型窒素肥料工場を建設する。合弁相手はリベリア国家石油 (NNPC)、投資総額 14.5 億ドル、建設地はリベリア最大の港湾都市 Lagos 周辺で、生産能力は 73 万トンアンモニア/年と 125 万トン尿素/年、2014 年完成する予定。製品の一部はインドに輸出する。
- \* ブラジルのヴァーレ社はペルーの Bayovar に建設中のりん酸肥料工場が完成し、8 月 5 日から正式生産開始。Bayovar はペルー北部の Piura 県にあり、現在のりん鉱石生産能力 390 万トン/年。当該項目には総投資額 5.66 億ドル、アメリカの Mosaic 社は 3.85 億ドルを投資し、その項目の 35%利権を取得した。また、三井物産も 2.75 億ドルを投資し、その 25%の利権を取得した。

## その他

- \* ベラルーシ政府第一副総理は、ロシアのウラル加里肥料社 (Uralkali) はベラルーシ加里肥料連合体 (BPC) から離脱する意思がなく、これからも協力関係を続けると表明した。6月、Uralkali 社の最大株主 Maruda 社 (65.63%の株を持つ) は最大 51%の株を手放すと発表した。
  
- \* カナダの Agrium 社は 2013 年または 2014 年にオンタリオ州 Kapuskasing 磷鉍山を閉山させると発表した。理由はその鉍山のりん鉍石に鉄の含有量が高く、りん酸の生産に採算取れない。
  
- \* ベラルーシ政府第一副総理はベラルーシ国有加里 (Belaruskali) の約 25%株式を売却し、60~70 億ドルの資金を集め、新規の加里鉍山開発に投入する。6月12日、加里鉍山の採掘が民間にも開放する法律をベラルーシ議会に通過したため、国有企業の株式を外国企業に売却することが可能となった。その株式の譲渡先は中国国営企業の可能性が大きい。

Belaruskali 社は Soligorsk 地区に 4 箇所の加里鉍山を有し、生産能力は約 900 万トン塩化加里/年。老朽化のため、2008 年は 828 万トン塩化加里を生産したが、2009 年は 416 万トンに落ち込んだ。株式売却で得る資金は Krasnoslobodsky 鉍山 (2009 年生産開始)、Berezovsky 鉍山 (2012 年生産開始予定) に投入し、合計生産能力は 600 万トン加里鉍石/年。

Belaruskali 社は BPC の 45%株式を所有し、ロシアの Uralkali 社 (BPC の 50%株式を所有) と共に BPC を通して、加里肥料を輸出販売する。
  
- \* ブラジルのヴァーレ社は化学肥料を将来の収益源として力を入れている。ペルーの Bayavar りん鉍山とりん酸肥料工場のほか、アフリカモザンビークの Evate 地区にりん鉍山採掘権利も取得した。また、今年 5 月にアメリカの Bunge 社から化学肥料子会社 Fosfertil 社の支配権を 38 億ドルで買収した。
  
- \* ベトナム政府が 2010~2020 年全国化学肥料生産販売企画会議において、各企業に今後の尿素プラント建設に慎重な姿勢を取るよう警告した。現在、ベトナムは富美肥料 (74 万トン/年)、河北肥料 (18 万トン/年) の 2 ヶ所尿素工場しかないが、金甌肥料 (74 万トン/年)、河北肥料第 2 工場 (50 万トン/年)、寧平石炭肥料 (56 万トン/年) の 3 工場が建設中、清化肥料 (56 万トン/年) も計画中であるため、数年後には尿素生産過剰に陥る危険性がある。ベトナムでは年間尿素需要量は約 200 万トン、現在年間 100~130 万トンの尿素を輸入している。

